

# 無関心一番つらい



## 原爆残り火 韓国へ

広島原爆の残り火「平和の火」が来月、在韓被爆者が多く住む韓国南部の町・陝川へ初めて届けられる。企画した大阪市の市民団体が、陝川の在韓被爆者支援団体に呼びかけた。12月下旬に予定されている日韓国間で

イベント会場で「平和の火」を手にする子どもら  
— 大阪市中央区の大阪城公園で

のイベントで、在韓被爆者の思いを込めて、ろうそくに火をともし。今年の日韓併合100年。実行委は「在韓被爆者の苦しみを知り、平和のあり方を考える機会に」と話している。

平和の火は第二次大戦中、広島で兵役に就いていた故山本達雄さんが、原爆で亡くなった叔父の遺品代わりに

故郷の福岡県星野村（現八女市）へ持ち帰ったもの。今年2月の市町村合併後は八女市が管理を引き継いだ。広島のとらう流しの種火としても使われている。企画したのは「キヤンドルナイトワンピ

ース実行委員会」（事務局・大阪市中央区）。吉沢武彦代表の②は韓国で在韓被爆者と交流し、「補償や被爆者健

康手帳がもらえないことよ、無関心が一番つらい」との言葉が忘れられなかった。計画では、火は実行委メンバーが八女市から陝川の原爆被害者福祉会館へ携帯懐炉に入れ、船で運ぶ。「ピースプロデューサー」と呼ばれるボランティアが12月3～5日、日本から陝川に集まり、会館に住むお年寄りら5

人から被爆体験を聞き取る。イベントは冬至（今年は12月22日）前後に予定されているが、国内の開催地はまだ決まっていない。

在韓被爆者について、国による公式な数字はないが、広島原爆の朝鮮人被爆者数は約3万人との説があり、陝川在住被爆者は約600人とされている。一方、実行委はピースプロデューサーなどを募集している。応募は今年28日まで。ピースプロデューサーは定員の15人になり次第締め切り。現地までの交通費などの実費は自己負担。問い合わせは同実行委（06・6375・7816）。

【林由紀子、写真】